

マルメ研修の感想文

はなえみ歯科 平田泰久（第46期オーラルフィジシャンセミナー修了）

私は、大学院卒業後の2014年に「若い歯科医師のためのオーラルフィジシャン育成セミナー」を受けた時、真の患者利益を追求し既成概念を打ち破った歯科医療が存在すること、それを30年以上に渡って実践されている熊谷先生にお会いし、日本の従来型の歯科医療との違いに衝撃を受けました。

翌年2015年、自身が開業する時期にあわせて「オーラルフィジシャン育成セミナー」を受講することができ、歯科医療の価値は「削って詰める」ことにあるのか、口腔の健康を「守り育てる」ことにあるのか、歯科医師である妻と一緒に参加したことで同じ価値を共有できました。

そしてこの度、2016年にスウェーデンマルメ大学での研修に参加させていただき、マルメ大学の素晴らしい講師陣、同じ目的を持って参加された先生や歯科衛生士の方々に会うことで、日々の診療に埋没していると見失う医療哲学を見つめ直す良い機会となりました。

スウェーデンも以前はムシ歯が溢れていたため、歯科医師は「削って詰める」を繰り返し、たくさんの歯を抜いていたという話を聞きました。しかし、現在では、若年者のう触が大きく減り、高齢者の残存歯数は増えました。

多くの点で日本とスウェーデンの歯科医療を取り巻く状況は異なります。保険制度、公共歯科医療機関、臨床研究の対象や規模、実施された歯科医療や政策に対する統計やデータ分析、文化や伝統などもその違いに含まれるでしょう。

研修中、30年以上スウェーデン在住の日本人通訳の方とお話する機会がありました。日本に戻って同窓会に参加すると、自分は全て歯が残っているのに友人がみんな入れ歯を使用していて驚いたそうです。その方は定期的にメンテナンスに通い、セルフケアに対する教育を受け、歯間ブラシを使用しているからかなと笑顔でおっしゃっていたのが印象的でした。

スウェーデンの歯科医療が治療中心から予防中心に転換したように、今、日本の歯科医療も変革の時期を迎えているのではないのでしょうか。

スウェーデンの歯科医療がまったく問題を抱えていないわけではありません。しかし、私達が学ぶべきことはたくさんあります。ひとつひとつ課題を乗り越えて、今回出会った先生方と協力して、真の患者利益に繋がる歯科医療を実践していこうとあらためて決意しました。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。